

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292500071		
法人名	社会福祉法人愛の園		
事業所名	グループホームゆったりハウス		
所在地	青森県上北郡野辺地町字上小中野80-190		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の権利を尊重し、個々のニーズに応じた良質で安全な介護を提供します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームではトップダウン方式ではなく、オープンな職員会議を開催しているため、職員からの意見も出やすく、日々の業務に反映されている。また、利用者や家族から出された意見等に関しても、より良いホーム運営のためのヒントとして捉え、対応している。 家族は行事への参加や来所も多く、ホームで対応できない場所へも家族が連れて行く等、良好な関係を構築し、絶大な協力を得ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、サービスの意義や役割について、全職員で共有できるように話し合いを行っている。	ホーム独自の理念を掲げている他、理念をかみ砕いた条文も作成し、地域密着型サービスの役割も含めて、ホームの行動規範として内容を理解している。また、毎日理念を唱和することで更に理解を深め、理念を基にした年次目標を作成することにより、日々の実践において理念が反映されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民や高校生のボランティアに訪問していただいたり、祭りの参加等を通じて、地域の方々との共有できる時間をつくるようにしている。	地元でも有名な企業の建物を改修してホームを開設していることから、地域住民にホームの存在が周知されており、開設時には近隣の世帯一軒一軒に挨拶に回り、理解を促している。また、近隣に民家が少ないため、来所を促す取り組みよりも、地域行事に積極的に参加する等して地域に入り込み、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々とは協力しながら、認知症への理解を広める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を通して、ホームの実践報告や意見をいただきながら運営し、サービスの向上に努めている。	委員が予定を立てやすいよう、偶数月の土曜、10時と開催日を固定していることから、会議への出席率も高く、活発な意見交換が行われている。すぐに対応できる意見については早急に取り組み、準備や予算化が必要な意見に対しても、理事長が参加していることから、内部で検討し、次年度に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者と連絡を密にとり、相談をしながらホームの運営を行っている。	町の福祉課長が運営推進会議の委員として参画し、会議の開催日が土曜日でも欠かさず出席する等、良好な関係を構築している。また、地域包括支援センターにも随時相談できる協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っておらず、万が一必要な場合は家族に十分に説明し、必要な手続きの下で行うことを説明している。	身体拘束についてのマニュアルを作成しており、必要な様式も整備されている。外部研修会の参加時には復命報告し、内部の職員会議や研修会において情報の共有を行い、日々のサービスに反映させている。また、ホーム開設時に近隣の世帯に挨拶がてらに説明した経緯があり、無断外出時にも連絡をいただくようお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職場内の研修で学習し、未然に防止できるように常に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について職場内の研修で学習し、必要な場合はいつでも活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や制度改正時に、重要事項説明書を用いて、家族等の不安や疑問に対し、十分に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者や家族等に意見や要望を話していただけるような雰囲気と機会を設けると共に、運営推進会議に利用者と家族代表に委員として参加していただき、意見を運営に反映させている。	日常の会話や態度等から、利用者の思いを察した時は、積極的に話しかけ、思いや希望を引き出すように努めている。また、利用者や家族等からの希望、意見等があれば、職員会議で話し合い、速やかに対応する体制を整えている他、常に検討し、日々のケアに反映して、より良い運営につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させるように努めている。また、日常的に、代表者や管理者が職員の話の聞けるように対応している。	月1回、「ゆったり会議」と称した職員会議を開催し、研修報告や勉強会、施設内で生じるあらゆる事例に関して、バラエティに富んだ内容で意見交換がなされている。また、疑問点があれば、その都度の意見交換があり、内容によっては検討して業務に反映し、サービスの向上へとつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や家庭状況等に配慮した勤務割を作成し、柔軟な労働ができるように配慮している。また、職員に向上心を持ってもらえるように、外部の研修の機会も推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修の機会を周知し、可能な限り研修に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のサービスとの交流や学習を想定し、業務支援をしてもらっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の初期段階は声かけを多くするようにして、できるだけ不安を取り除くように努めており、早く生活に慣れていただくよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から利用者宅を訪問し、多様な疑問や不安に対し、繰り返し説明し、安心して入居できるように配慮している。また、本人の生活状況がわかるように、生活状況報告書を毎月送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅介護支援事業所と連携し、グループホーム以外のサービスも含めた、総合的な相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事やできる事を聞き取り、実施していただきながら、積極的にグループホームでの生活に参加していただけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話で連絡をしたり、行事等に積極的に参加していただけるように案内し、可能な範囲で利用者と面会する機会を設けていただけるよう、説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、家族・親戚・知人に面会していただけるよう、お願いをしている。	入居時に、利用者や家族から聞き取り等を行って情報収集し、日々の暮らしの中での会話等から、馴染みの人や場所を把握している。また、ホームで対応できない場所に出かける際は、家族が連れて行ってくれる等、絶大な協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへの参加や、毎日の生活上の役割分担で協力できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の理由により契約が終了となった後も、その後のサービスを確実に利用できるように、関係機関や家族との調整を援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活の仕方について、一つずつ、本人の意向を確認しながら行い、無理をした対応とならないようにしている。	日々の暮らしの状況、日常会話、職員の気づき等を話し合うことにより、思いや希望、意向を把握するように努めている。また、家族との関係や協力体制が非常に強く、様々な情報も提供していただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活について、時間や場所を変えて、本人や家族から聞き取り、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインのチェックや状態の観察を行い、体調に応じた生活ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案を基に本人、家族、職員で検討し、計画の作成を行っている。また、モニタリングを行い、随時確認している。	利用者や家族も一緒になってカンファレンスを行い、月1回の職員会議において意見交換を行って、介護計画を作成している。また、介護保険の更新時や見直しを行う際にも、家族等に意見を聞いて修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の援助記録を記載し、職員間で情報を共有している。また、特記事項は日誌に記載し、情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズに対し、本人の置かれている環境を十分に把握しながら、可能な範囲で対応できる方法を模索している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある社会資源を活用しながら生活していただけるように、訪問してもらったり、出かけたりしながら支援している。(理美容、金融機関、スーパー等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や協力を大切に、定期的な受診はもとより、臨時的な受診にも状態に応じて対応している。	希望する医療機関やかかりつけ医への継続受診の他、症状により、適切な医療機関を受診できるように支援している。また、変化があった場合や必要な時には、家族等に電話ですぐに連絡し、臨時で受診に行く時も報告しており、通院方法や受診結果の伝達方法について、納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護職員を配置し、利用者の状態の変化や必要な処置を早期にできる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関への情報提供を必ず行い、退院時も医療機関から情報提供をいただくようにして、常に情報交換しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期にできる事と、できない事を十分に説明し、意思確認ができるように「意思確認表」を作成して、準備している。	利用者の状態に応じて、生活が可能な限り、ホームでの暮らしを継続できるよう支援することとしているが、基本姿勢としては、終末期対応は行わない方針を説明している。	重度化や終末期の対応について、重要事項説明書に明記することに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命法の講習を受講し、急変や事故発生時、常に適切な対応ができるようになっている。また、緊急連絡網を作成し、必要な初期対応ができる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、全職員が必要な対応ができるようになっている。また、近隣住民や近隣施設へ協力を働きかけている。	年2回、職員と利用者が一緒に避難訓練を実施しており、夜間想定での訓練についても消防署と協議して、実施する予定である。また、ホーム内に飲料水等の非常時の備蓄品を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレに利用者が居る場合には必ずノックし、声がけしてから入室するようになっている。	利用者の尊厳に配慮した上で、その人に合った呼びかけや声がけを行い、人生の先輩に対して、言葉遣いにも十分に気をつけて接している。また、プライバシーに対するマニュアルがあり、入浴介助時等、配慮しながら業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、出かけた場所や食べたい物等を聞きながら、できる限り実現できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は利用者の体調や意向を尊重しながら、日々の生活を組み立てられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は利用者と相談して選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を利用者から聞き、一緒に買い物に行ったり、食事の準備をしている他、食後はできる範囲で後片付けを手伝ってもらっている。	現在は、職員体制の変更により、同法人のデイサービスより食事を提供していただいている他、利用者と買い物に出かけて食材を一緒に選び、利用者が希望する料理を提供している。また、利用者の意向に沿って、できる事ややりたい事は手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶以外にもヨーグルトやヤクルトを提供したり、食べやすいようにお粥やおにぎりにしながら、食事量が落ちないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間誘導だけでなく、利用者の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	排泄を記録することにより、各自のパターンや固有のサインを把握し、その人に合わせたトイレ誘導を行っている。失禁を確認した時は周囲に気づかれないよう配慮し、交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、ヨーグルトの摂取や、毎日の体操、歩行の実施、水分摂取の機会を多く設け、スムーズな排便の促進に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の体調や気分配慮し、声かけのタイミングを変えてみたり、入浴時間を考慮している。	基本的には、入浴の曜日と時間を固定しているものの、利用者の状態や意向を最大限に尊重し、柔軟に対応している。また、入浴を拒否している場合は、時間を置いて、様子を見ながら再度声かけをする等、無理なく入浴ができるよう促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な昼寝の確保等を行い、夜間の睡眠が安眠となるようにし、また、適度な運動の機会も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と介護職員が共同して服薬の確認を行い、処方に応じた適切な服薬ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を見つけ、本人の力を活かした役割を作りながら生活できるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出の他に、月1回程度、町内への買い物等の外出ができるように支援している。	季節行事としてのドライブや、近隣スーパーへの買い物、近所や畑への散歩の機会等、日常的に外出できる機会を多く設けている。また、季節行事の花見に関しても、どこか場所に行きたいか、利用者に意見を伺って対応し、利用者、家族からも好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の外出時は、少額ではあるが、支払いができるよう機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望した時以外にも、遠方の家族から電話が来た時等は、できる限り、本人に電話に出てもらおうよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間の時節が感じられるように、その時(七夕やクリスマス等)の飾り付けを行っている。また、温かい時期には近所を散歩し、季節を感じられるように支援している。	季節に応じてホールを彩る飾りを変える等、建物内でも四季を感じられる配慮がなされており、普段は利用者のほとんどが共用スペースで過ごしている。また、職員が立てる物音やテレビ、音楽の音量等は適切で、利用者の会話の妨げにならないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他、玄関にソファを用意して、限られた他の利用者との時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらい、利用者が居心地の良い空間をつくれるように配慮している。	入居時に、使い慣れた物を持ってきていただくように促し、箸やコップ、お椀等は馴染みの物を使用している。居室への持ち込みが少ない場合は、部屋の雰囲気や本人の好みを聞き、職員と一緒にコミュニケーションを図りながら飾り付けを行い、居心地の良い居室づくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の居室に名前を付けたり、トイレの場所にもわかるように名札を付けている。利用者が迷った時はすぐに声がけし、安全に過ごせるように支援している。		